

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 守恒 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようなになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

守恒 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っており、文章を読み取る力や大まかな内容を把握する力が優れていた。書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・全体的には全国平均正答率を上回っており、文章を読み取る力や大まかな内容を把握する力が優れていた。	上回っている
	努力が必要な問題	状況や場面に沿って適切な語句を選択したり内容を書いたりする問題については、正答率が低く、無回答率も他の問題に比べ高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。文章に書かれたことをもとにして、自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・資料を用いる際の注意点や翻訳の効果について答える問題は正答率が高かった。	上回っている
	努力が必要な問題	・資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、自分がどのように関わっていきたいか自分の考えを書く問題は正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を大きく上回っている。文字式の利用や対称移動の問題はよくできている。数量の関係を式に表すことや二元一次方程式の問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・比の意味や文字式の計算、作図の問題はよくできている。	上回っている
	努力が必要な問題	・二元一次方程式や体積を求める問題の正答率が低い。また、図形の問題の無回答率が高い。	

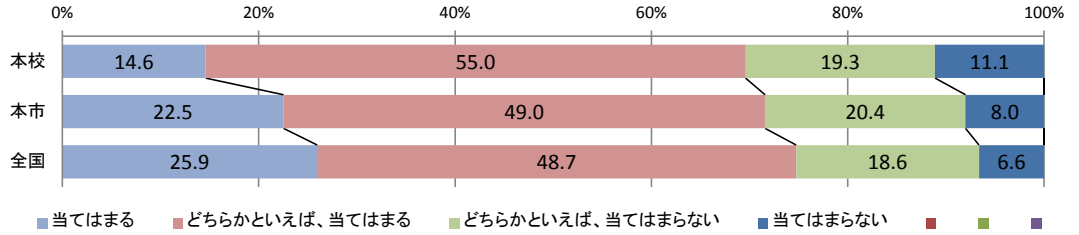
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を大きく上回っている。文字式の利用や合同の証明の問題はよくできている。数学的に説明したり数量の関係を正しく記述する問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・連続する3つの整数の問題や三角形の合同の証明問題はよくできている。	上回っている
	努力が必要な問題	・映像の明るさと面積の関係を説明したり、平行四辺形になることを説明する問題の正答率が低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っている。記述問題に対しても、粘り強く取り組み、無解答数も減少している。 ・自然事象についての知識・理解がよくできている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	塩化ナトリウムを化学式で表す問題の正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	他者の考察を検討して改善するすることが正しいことを説明する問題の正答率が低い。科学的な概念を聞いて考えたり説明したりすることが課題である。	

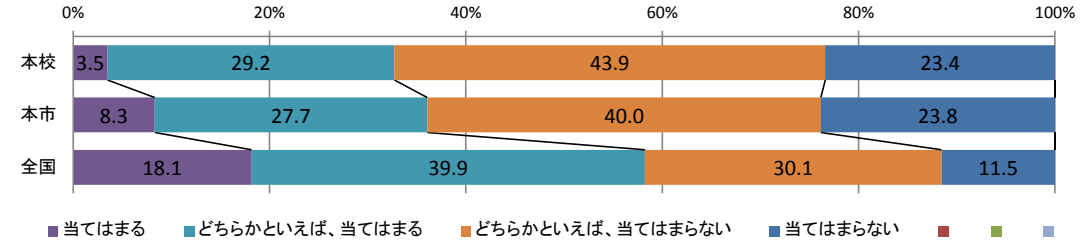
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

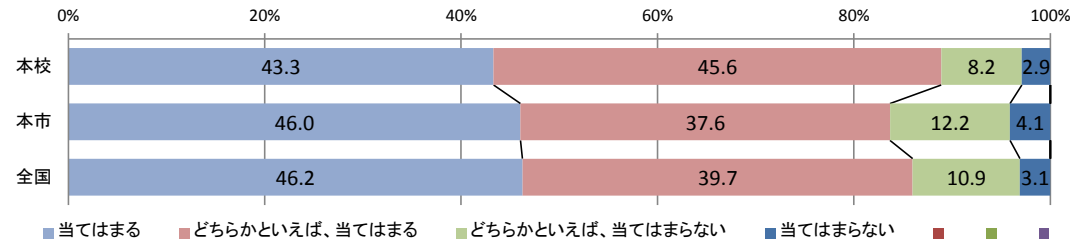
36
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。



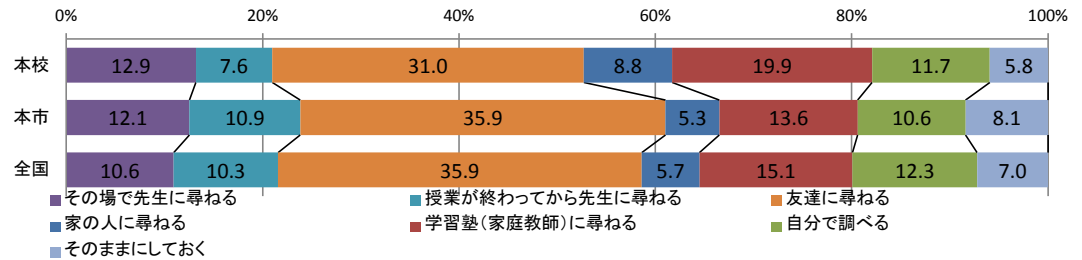
37
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



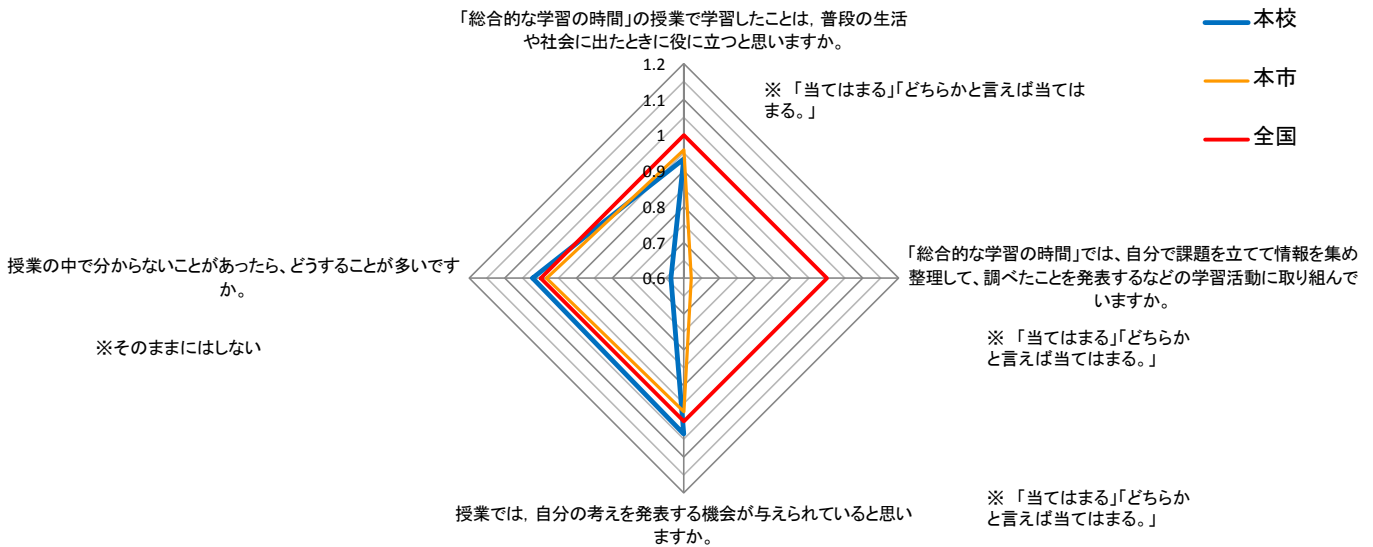
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



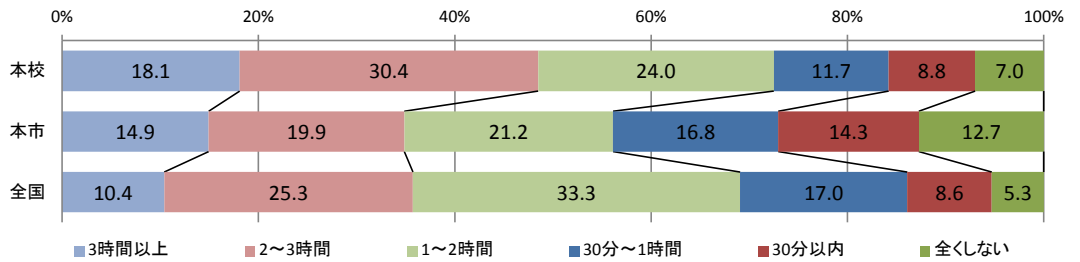
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・総合的な学習が役に立つと思う割合が低く、調べたことを発表する学習活動が少ないことが課題である。
- ・発表する機会が与えられていると答えている生徒は、全国と比較しても高く、授業の改善が見られる。
- ・分からないことがあったら、先生や友達や家の人に聞く生徒の割合が高い。
- ・「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりの振り返りの場面で書く活動を位置付けたりして、書くことを授業に取り入れる必要がある。

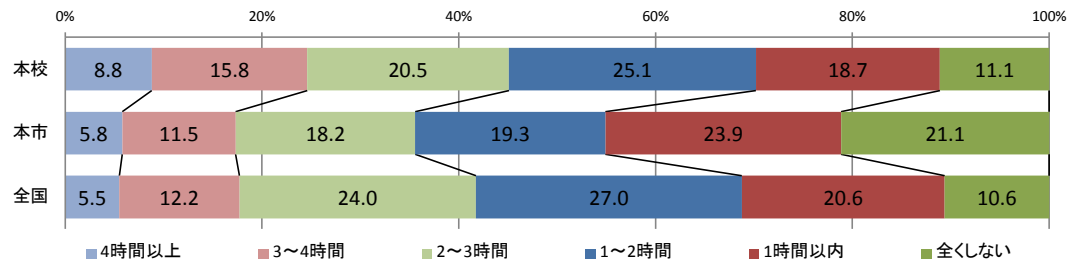
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

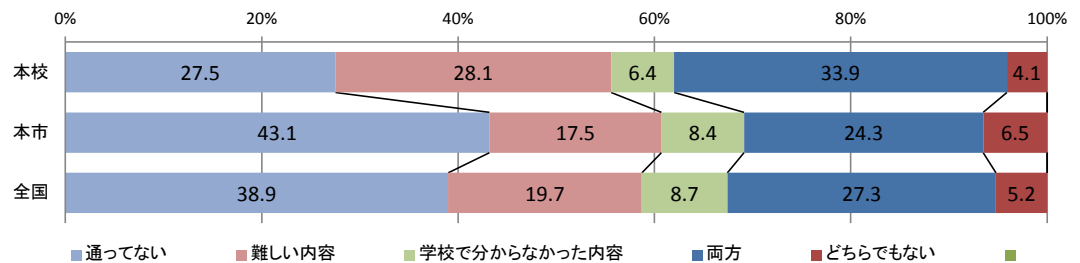
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



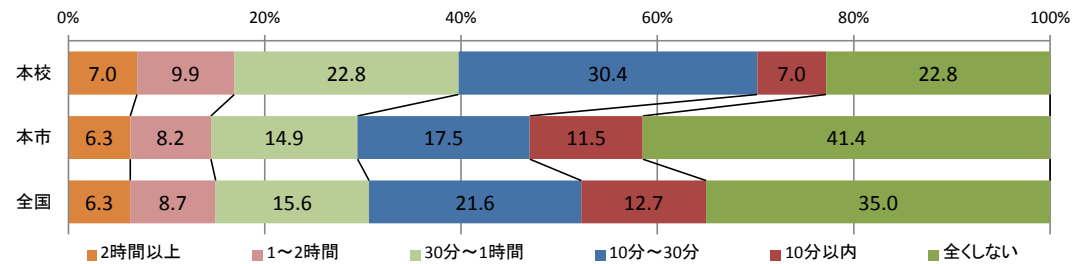
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



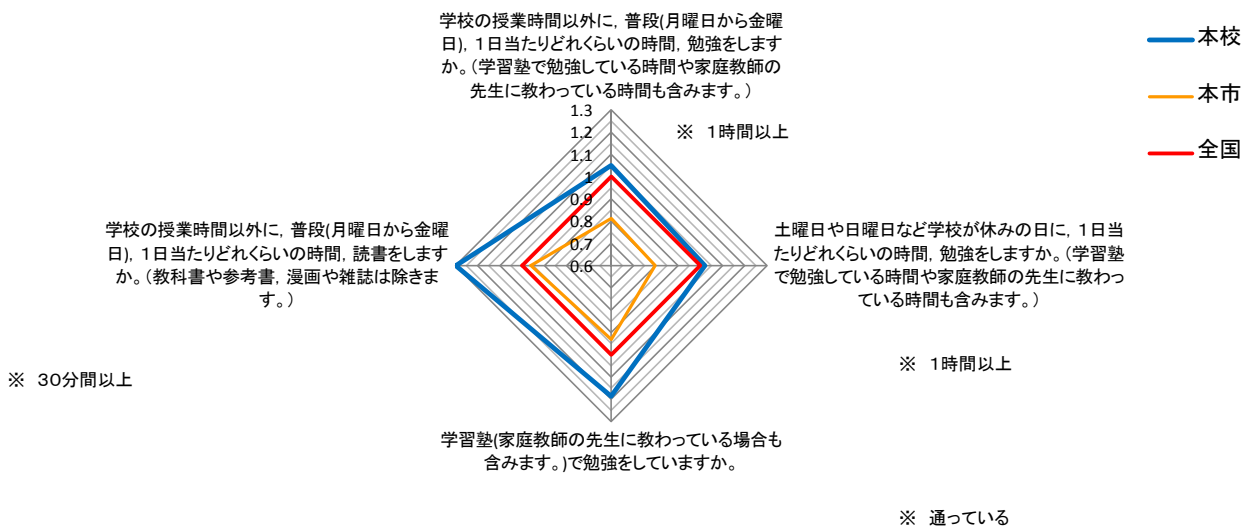
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。)で勉強をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

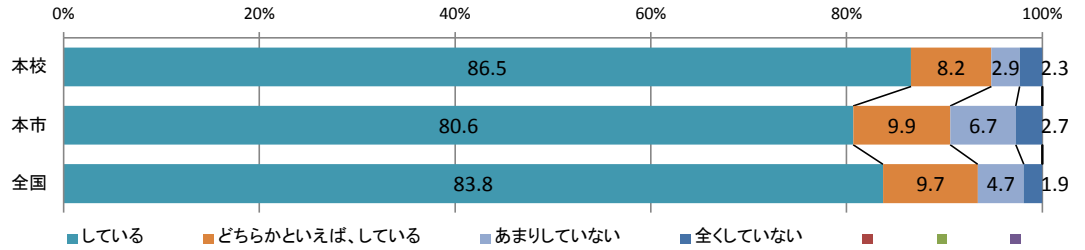


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

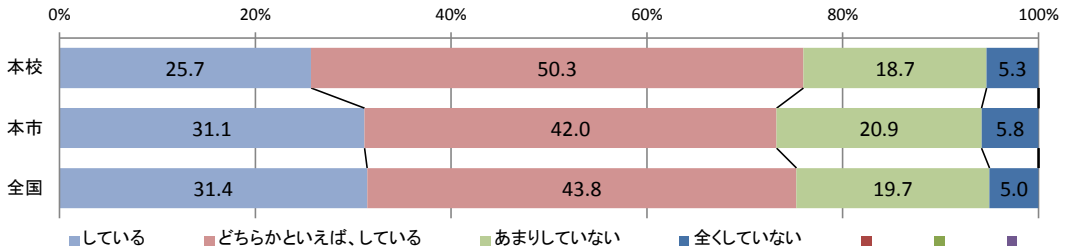
- ・1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が高くなった。3時間以上家庭学習している生徒の割合も高い。しかし、30分以内と全くしない生徒が全国平均より高く、二極化している。
- ・学習塾などで勉強する生徒の割合が高い。
- ・1日の読書時間が30分以上の生徒が約4割いる。

④ 生活習慣等に関する調査結果

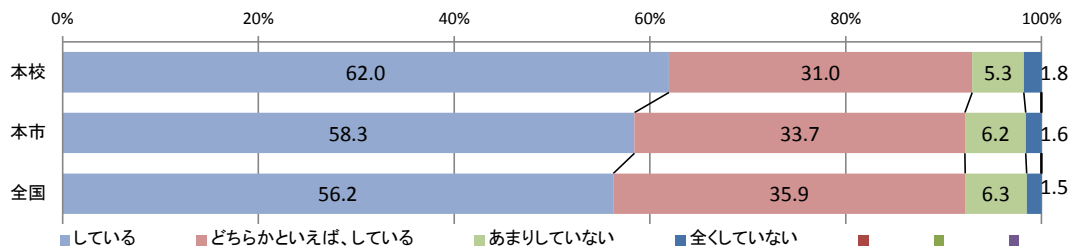
1
朝食を毎日食べていますか。



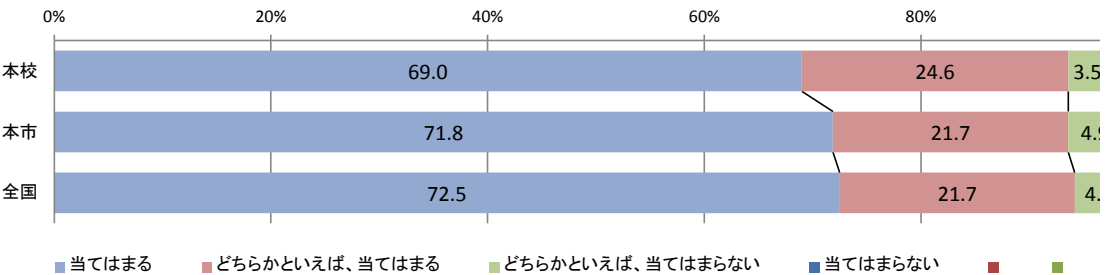
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



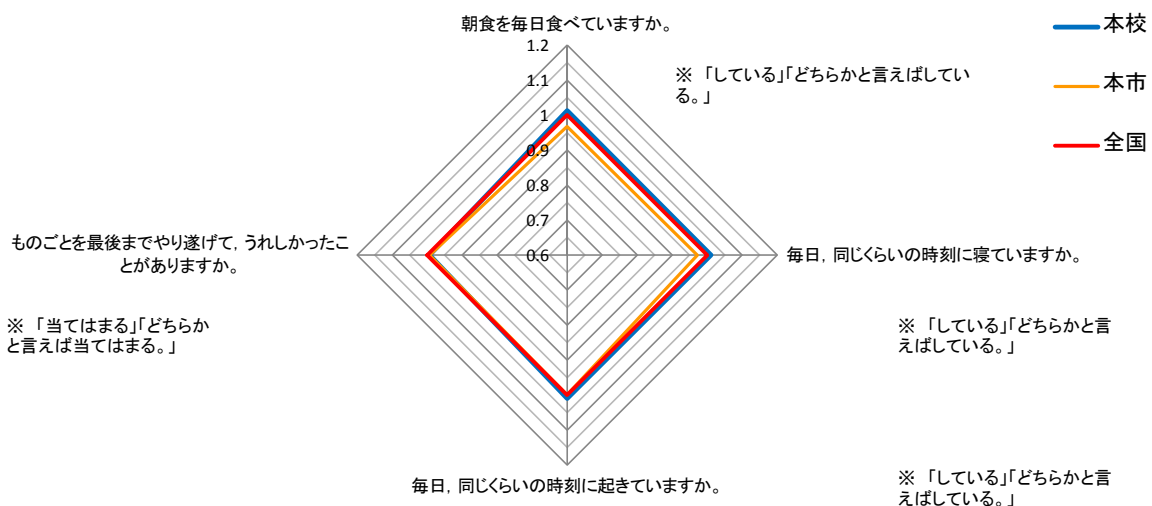
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・朝食を毎日食べる生徒が、全国平均を上回っている。また、同じくらいの時間に寝起きする生徒の割合は、ほぼ全国平均と同じである。

・最後までやりとげてうれしかったことでは、やや全国平均を下回っている。努力して達成できる成就感を味わわせたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施。
 - ・学力向上強化月間(国、数、英)、定期考査の予想問題の取組などを全校一斉に実施。
 - ・特設時間の取組内容計画表作成(学力向上推進委員会・各学年)を作成。
 - ・全国学力調査問題やCRTアシストシートなどの問題の活用。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用。
 - ・アシストシートと過去問をプリントして、冬休み・春休みの課題の中に取り入れる。
 - ・「春休みの課題考査」を実施し、過去問題と似た問題を入れる。
- ◎ 「言語活動」や「書く」ことを習慣化する。
 - ・授業で「自分の考えをまとめ、意見交換する時間」を取り入れる。
 - ・漢字練習や連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書くなど、書く活動を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・「自主学習」として、漢字、計算、英単語、英文の練習する。
 - ・家庭学習時間を確保し、毎月23日をノーゲーム、ノーテレビデーとして学習に集中する。
 - ・学習方法をまとめた「学習の手引き」や授業への心構え「授業の五ヶ条」(①時間を守ろう！②あいさつをきちんとしよう！③場を整えよう！④正しい姿勢を保とう！⑤集中して話を聴こう！)の作成・実施する。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」に家庭学習時間や読書の記録をする。
 - ・家庭学習マイスター賞へ応募する。
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。
 - ・学校便り、学校HPで知らせる。